

Ⅶ. 先輩たちの事例

Aさん（私立大学（夜間））

私が夜間の大学を選んだ理由は、指定校推薦で確実に進学できたことと、入学前の費用が少なく済んだことからです。入学後の学費は、主にアルバイトと奨学金で払っています。多い時で週に6日アルバイトをすることもあります。授業は夕方からなので両立もできます。

高校生の時は教員を目指していましたが、大学の授業や、教育支援のボランティアで子供たちと関わる中で、経済的に困難な状況にある子供たちの自立支援のためのNPOを立ち上げたいと思うようになりました。

大事なのは、「一歩飛び出すこと」だと思います。自分はダメだと思わないで、もっと自分から、調べるだけ調べる、聞くだけ聞く、話すだけ話す、というのを、まずやってみてほしいと思います。



Bさん（私立大学）

経済学部で、公認会計士を目指すコースに在籍しています。大学が提携している専門学校があり、大学の授業が終わってから専門学校にも通っています。

アルバイトはできないので、日本学生支援機構と市の奨学金を併用しています。どちらも無利子で、支援機構からは月5万4千円、市からは月2万円を借りています。

公認会計士の資格を取るまでには最低2年以上かかると言われていますが、簿記の資格は持っているので、なんとか大学在学中の合格を目指して勉強中です。

経済的に厳しいと、どうしても自分でやらなければいけないことが多くなります。その中でも、受験勉強と同じぐらい情報を手に入れることが大事です。やりたいことがあっても、家庭の事情などで迷うこともあると思いますが、何か方法はあるはず。自分から動けば、その方法がきっと見つかると思います。



Cさん（国立大学）

高校生の時から奨学金を借りていて、大学進学に向けて日本学生支援機構の奨学金の予約申込みをしました。

国立大学が第一志望でしたが、滑り止めで受験した私立大学は、学費が免除になる「特別給付」枠がある大学を選びました。私立大学に先に合格したときに、入学金をすぐに納めないといけなかったのが、「国の教育ローン」を借りました。今、大学の授業料は、申請して全額免除になっています。

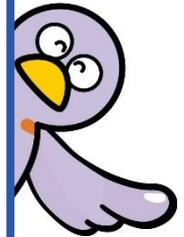
私の場合は、「化学系の開発職に就きたい」という目標があって、そこから逆算して大学に進学する方法を考えていきました。やりたいことから逆算して、ビジョンを明確にしておくことが大事だと思います。自分で考えて、自分から調べていけば、経済的に厳しい状況でも、何とかうまくやっていく方法が見つかるのではないかなと思います。

Dさん（私立大学）

「お金のことは気にしなくていい。」母のこの言葉で、私は進学を決意しました。家庭の経済的事情で就職を視野に入れたこともありましたが、自分の夢を実現するためならば、奨学金を借りてでも大学へ行く価値はあります。

私は将来、設計のできる技術師を目指しています。大学を選択するときも、将来につながる資格を取得できる大学を選びました。奨学金は、日本学生支援機構の無利子・有利子奨学金を併用して借りているため、卒業後に始まる返済のために、アルバイト代の半分は貯蓄に充てています。また、2年次以降も無利子の奨学金を借りるために日々勉学に励んでいます。

大学進学する意思があるなら、まずは行動してみてください。お金のことや勉強のこと、様々な不安があると思いますが、解決方法はたくさんあります。悩んでいても始まらないので、自分で情報を収集し、自分に最適な解決方法をぜひ見つけてください。



Eさん（私立大学）

私が大学進学を決めたのは、高校3年生の夏でした。それまでは家庭の経済的状況も踏まえて職業訓練校へ行く予定でしたが、新聞奨学金という制度があることを知り、働きながら大学で学ぶことを決意しました。

現在の生活は、週6日早朝の新聞配達を行い、その後大学へ通っています。学費は新聞社が全額負担、また、給料として月11万円ほどの支給があります。入学準備にかかるお金は、高校時代に貯めていたアルバイト代を使いました。

私は将来、大学で学んだ中国語を生かせる仕事に就きたいと考えています。進路選択は早めの行動が大切です。いざ入学するときになって慌てることのないよう、コツコツと自分で準備し、夢を諦めることのないように頑張ってください。

